

政策整理番号 26

評価シート(B)

対象年度	H16	作成部課室	環境生活部生活・文化課	関係部課室	教育庁生涯学習課, 文化財保護課
------	-----	-------	-------------	-------	------------------

政策番号	3-8-1	政策名	地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興
------	-------	-----	---------------------

施策番号	2	施策名	美術や演劇など文化・芸術活動に親しむための環境づくり
------	---	-----	----------------------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【政策評価指標達成状況から】有効
 ・指標名:県立文化施設への入場者数と芸術文化事業への参加者数 達成度 A
 ・(達成状況の背景)県立文化施設への入場者数と芸術文化事業への参加者数は、平成16年の仮目標値を上回った。
 ・(達成度から見た有効性)平成16年は、仮目標を上回り、本施策は有効と考えられる。

【政策満足度から】有効
 ・満足度は、前回に引き続き60点となった。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】概ね有効
 ・平成13年12月に文化芸術基本法が公布、施行された。本県でも、政策実現の追い風ともいえる、文化芸術振興条例が平成16年7月に制定された。

【総括】
 ・本県において、平成16年7月に文化芸術振興条例が制定され、具体的な施策を展開する宮城県文化振興ビジョンも平成17年7月に策定されることから、本施策はそのビジョンを具現化するために最も有効なものとなると考えられる。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	みやぎ県民文化創造の祭典開催事業	6		
2	主	宮城芸術劇場(仮称)整備事業	7		
3			8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

【国,市町村,民間団体との役割分担】概ね適切
 ・(国)文化芸術基本法の制定,文化芸術創造プランの策定
 ・(県)文化芸術振興ビジョンの策定,みやぎ県民文化創造の祭典開催事業の実施
 ・(市町村)住民主体となった文化芸術活動の支援
 ・(民間団体)芸術祭,県民文化祭等への参加
 ・上記の役割を総合的に勘案して概ね適切と判断した。

【施策目的を踏まえた事業か】適切
 ・県民の文化芸術活動の推進役として必要な事業であり,施策目的に合致する。

【事業間で重複や矛盾がないか】適切
 ・重複や矛盾は特になし。

【社会経済情勢に適切した事業か】概ね適切
 ・ライフスタイルの変化等により,県民の行う文化・芸術活動も多様になってきており,それらの発表の場を設けることにより,活動を推進するものである。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性)おおむね適切
 ・施策重視度が70点と前回と同水準を維持しているが,満足度が前回より4ポイント高くなりかい離は縮小した。
 その一方,文化振興ビジョンも策定されることから,県の施策に対する期待も大きくなるため,今後も継続して事業を進める必要性が認められる。

【総括】
 ・県民が取り組んでいる文化・芸術活動の発表の場を提供することは,活動自体を促進するもので,本県の文化・芸術のレベルを上げるものであり,本事業における県関与の適切性と設定の妥当性については,適切と認められる。

施策番号	2	施策名	美術や演劇など文化・芸術活動に親しむための環境づくり
------	---	-----	----------------------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【施策満足度から】概ね有効
 ・前回より満足度が4ポイント上がっており、事業をさらに積極的に進めていく必要がある。

【政策評価指標達成状況から】有効 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋
 ・県立文化施設への入場者数と芸術文化事業への参加者数は、平成16年の仮目標値を上回った。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】概ね有効
 ・平成13年12月に文化芸術基本法が公布、施行された。本県でも、政策実現の追い風ともいえる、文化芸術振興条例が平成16年7月に制定された。

【業績指標推移から】概ね有効
 ・事業費が増加し、みやぎ県民文化創造の祭典開催事業が軌道に乗り県民の支持を得た結果、入場者数が増加している結果から、概ね有効と思われる。

【成果指標推移から】概ね有効
 ・事業費が増加し、みやぎ県民文化創造の祭典開催事業が軌道に乗り県民の支持を得た結果、入場者数が増加している結果から、概ね有効と思われる。

【総括】
 ・価値観の多様化により、県民の文化・芸術活動への取り組み方も多様化しており、事業の展開についてはそのような状況に対応していく必要がある。

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的	概ね効率的	課題有
-----	-------	-----

【施策満足度 業績指標・成果指標】概ね効率的
 ・重視度は相変わらず高く、満足度は昨年より4ポイント上がったことから、過去の事業の成果が徐々にではあるが、現れつつあると思われる。このように、文化芸術に関する各施策は、県民の多様な価値観に対し、短期的には県民満足度調査に結果に反映しにくいと思われ、政策評価指標と県民満足度調査の今後の推移を見守る必要がある。

【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】概ね効率的
 ・事業費が増加し、みやぎ県民文化創造の祭典開催事業が軌道に乗り県民の支持を得た結果、入場者数が増加している結果から、費用対効果において高い効率性が認められ、その成果が政策評価指標に現れているものと思われる。

【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】概ね効率的
 ・特になし。

【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】概ね効率的
 ・事業費が増加し、みやぎ県民文化創造の祭典開催事業が軌道に乗り県民の支持を得た結果、入場者数が増加している結果から、費用対効果において高い効率性が認められ、その成果が政策評価指標に現れているものと思われる。

【総括】
 ・本事業群の効率性については概ね効率的と認められる。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

・県民のニーズに対応した事業の展開については文化振興ビジョンに基づき検討していく必要があるが、施策としては政策目的である地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興のためには、必要不可欠なものであり、適切と認められる。

政策評価指標分析カード(整理番号1)

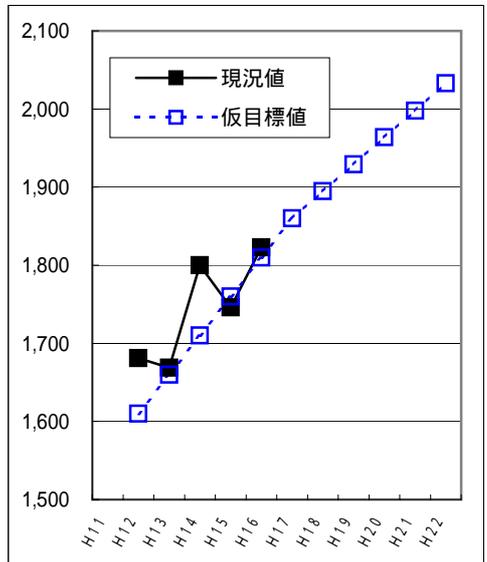
政策整理番号 26

対象年度	H16	作成部課室	環境生活部生活・文化課	関係部課室	教育庁生涯学習課,文化財保護課
政策番号	3-8-1	政策名	地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興		
施策番号	2	施策名	美術や演劇など文化・芸術活動に親しむための環境づくり		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
県立文化施設への入場者数と芸術文化事業への参加者数		千人						
目標値	難易度	H17	1,860		H22	2,033		
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H11		H12	H13	H14	H15	H16	
現況値 (達成度判定値)	1,560		1,681	1,669	1,800	1,746	1,823	
仮目標値			1,610	1,660	1,710	1,760	1,810	1,860
達成度			A	A	A	B	A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・県民が多くの文化に触れることのできる環境が整備されつつあり、心の豊かさや潤いを実感できる環境の整備を示す指標として選定した。具体的には県民が文化に触れられる機会を増やすために、県立文化施設が連携した事業展開を図り、施設への入場者数の増加を目指す。また、芸術文化事業の充実を図り、質の高い文化の提供と県民の参加機会の拡大を目指す。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位:点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A	-			70	70	70					
施策満足度 B	-			53	55	59						
かい離 A-B	-			17	15	11						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
<p>達成度:A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立文化施設への入場者数と芸術文化事業への参加者数は、平成16年の仮目標値を上回った。 ・文化芸術に関する各施策は、県民の多様な価値観に対し、短期的には県民満足度調査の結果に反映しにくいと思われ、政策評価指標と県民満足度調査の今後の推移を見守る必要がある。 	<p>判定:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成度と施策満足度は、正の相関がある。重視度は相変わらず高く、満足度は昨年より4ポイント上がったことから、過去の事業の成果が徐々にはあるが、現れつつあると思われる。 <p>相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない、または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)</p>

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

[施策の有効性を評価する上で適切な指標か]
 ・入場者数という量的指標を設定して達成度を導き出している現在においては、各個人の多様な価値観や満足度が反映されるような指標を検討する必要もあると思われるが、施策の性格上、短期的には県民満足度調査に反映しにくい面や、施策を支える事業の工夫次第で、県民満足度調査に今後どのように反映されるのか、推移をみる必要があると思われるので、しばらくは、ますますの事業内容の充実を図るなど、事業推進に力を注ぎ、状況を見極めたい。

